

全校生徒が詠んだ歌の中から、優れたものを紹介します。

七・八月のお題は「歩く」・「文房具」・（一年生のみ）「地域探訪」です

月間賞

太陽に照らされ光るみずたまり足で踏んでは飛び出していく

——二 廣瀬 亜美



第二席

ぼつぼつと神様からの贈り物カサをささずにスキップしよう ——二 安田 唯

第三席

水溜まり避けて歩けば遠回りけれど確かに選んだ道を 三—— 佐藤 優希

放課後に秒針とともに忙しくシャーペン走らすテスト勉強 二—— 及川 優花

弟の手のひらサイズの運動靴があまりに可愛くほほえんでしまう 二—— 鈴木 日和

まっすぐに直線引いて見えてくる十五センチから教えてもらう 一——三 鈴木 七海

優良賞

三年生皆が自分の夢向かい今を歩く時の旅人

通学路見慣れたはずの道なのに月に照らされ胸躍る夜 二—— 高橋 響人

歩きたび頬に触れゆく夏の風心落ち着く家までの道 二—— 中澤 ひなた

消しゴムの角に丸みが出てきたね丸い分だけ努力の証 二—— 濱田 優菜

のんびりと歩く隣はお天道さんいっしょにどこへ向かおうか 二—— 齋藤 珠々

道端の小さな花も上を向く。私も見習い上を向きたい 一——三 菅原 滯

跡部 冬花

佳作

えんぴつがシャープペンシルにそしてまたボールペンに変わってゆく 三—— 千葉奈津美

通り道猫の親子がまるまってあたたかそうに眠っているな 三—— 鈴木奈津美

はじめと濡れた地面を踏みならず梅雨のはじめに草芽喜ぶ 二—— 中澤 ひなた

二年前君がくれたボールペン隣にがあると君がいるよう 二—— 菊地 茉帆

勉強中不意に消しゴム見つめると小さくなったと寂しくおもう 二—— 濱田 優菜

ペンを持つ君の手必死になつていた消し護謨の跡が物語ってる 二—— 沖田 希望

水の音に夢から覚める夢を見た紫^{アガ}君子蘭^{パンサス}の園を歩けり 二—— 千葉みずき

薄暗いどんよりとした空の中歩く私に差す光の輪 一—— 佐々木一葉

消しゴムの形くずれる様子見て今の私と同じ立場だ 一—— 廣瀬 亜美

「岩手沢」昔は川に囲まれて政宗改名「岩出山」とぞ 一——三 木村 紀来